

問い合わせ先  
交通部  
安全課長 中村 直人  
TEL099-250-9800 (内線 2620)

平成21年11月30日  
第十管区海上保安本部

## 副振動<sup>(※)</sup>による転覆海難の防止について

九州沿岸では、冬から春にかけて大きな副振動が発生し、転覆等の海難の発生が懸念されることから、当管区では、漁協等に対して海難防止講習会を開催するなど安全対策を呼びかけます。

### 1 過去の海難発生状況 (別紙参照)

過去のデータによると、副振動は、2月から3月頃にかけて発生しています。

平成21年2月25日、副振動による急激な潮位変動により甑島、南さつま市の港に係留中の小型船16隻が転覆し、被害は、甑島で著しく12隻の小型漁船転覆、10隻の小型漁船の係留索切断、養殖筏7基のアンカーロープ切断が確認されております。

### 2 主な海難防止活動

(1) 漁協等で海難防止講習会等を通じて、以下の安全対策を呼びかけます。

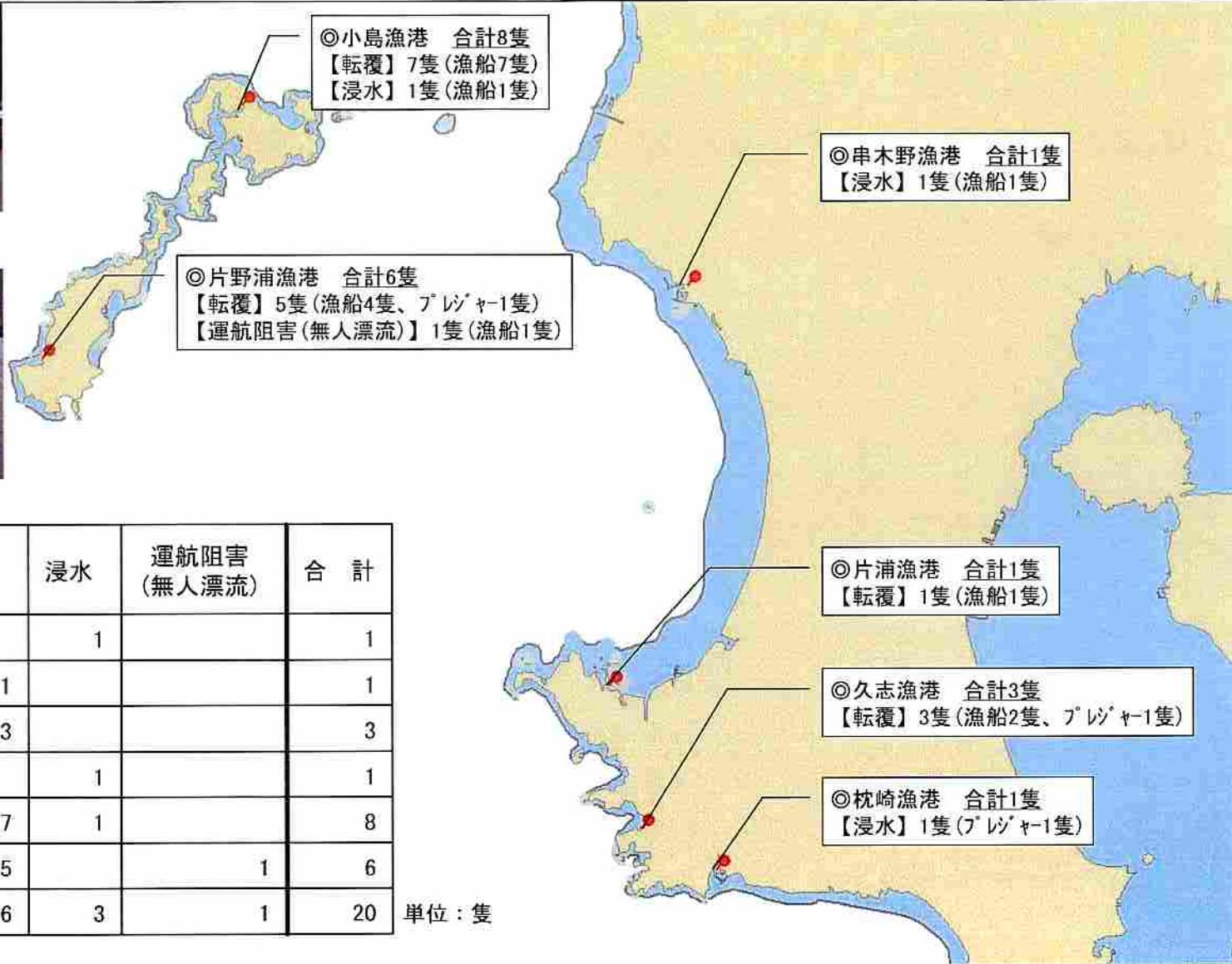
- ・ 小型船は、係留策を補強、陸揚げするなどして流出、転覆防止を図ること。
- ・ 海上及び沿岸付近にある養殖筏等が流出しないようにアンカーロープ等の補強を行なうこと。また作業船の甲板上にある移動物の固縛や陸揚げの措置を行なうこと。
- ・ 海岸付近で作業している者は、必要に応じて高台等に避難すること。

(2) 副振動の情報あれば、以下の手法により漁協等の関係先に注意喚起します。

- ・ 当管区ホームページ及びM I C S (沿岸域情報提供システム) 等を活用。F A X 等により、各海上保安部署から各漁協等に対して注意喚起を実施。
- ・ 漁業無線局に依頼し、漁業無線を使用した操業漁船等へ安全情報の提供。
- ・ 国際V H F 及びA I S (船舶自動識別装置) により、航行船舶への安全情報の提供。

# 副振動(あびき)による海難発生位置

別紙



	転覆	浸水	運航阻害 (無人漂流)	合計
串木野漁港		1		1
片浦漁港	1			1
久志漁港	3			3
枕崎漁港		1		1
小島漁港	7	1		8
片野浦漁港	5		1	6
合計	16	3	1	20

単位：隻

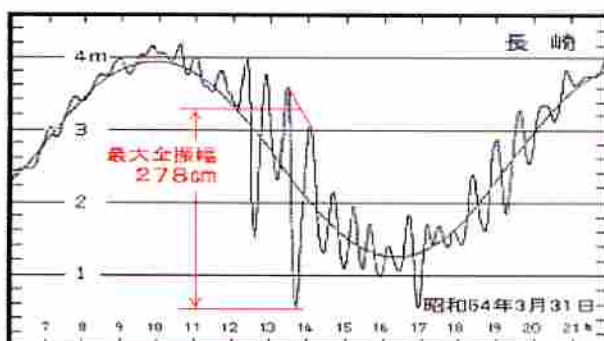
# 「あびき」とは！？ ～発生原因等～

副振動(場所によっては「あびき」)は数分～数十分周期で海面が上下振動します。

過去には大きなあびきで係留していた船舶の流失や低地での浸水被害が発生しています。

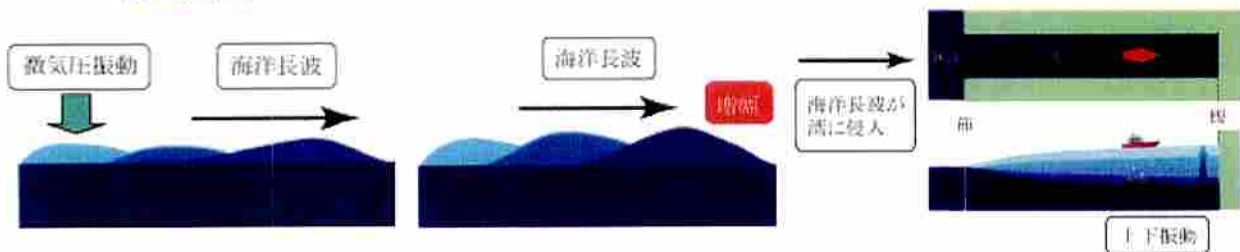
あびきの語源は早い流れのため魚網が流される「網引き」に由来すると言われています。現在は長崎に限らず、九州西方で発生する同様な現象に対して広く用いられるようになってきました。

副振動とは数十分周期の港湾の振動で、長方形の容器に水を入れ、一方の端を持ち上げて少し傾けてから元に戻すとしばらく水全体が左右に振動するのと同じ現象です。



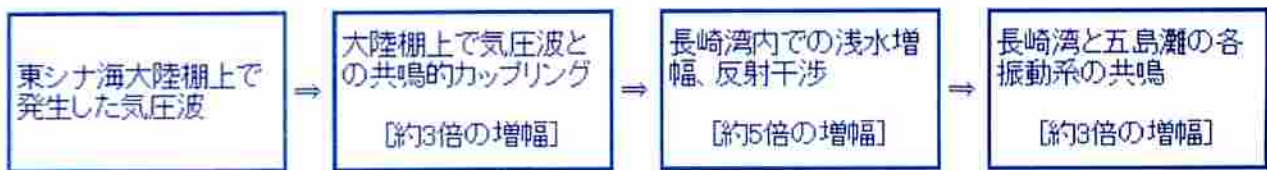
[長崎海洋気象台ホームページより](#)

## あびきの発生原因



あびきは東シナ海大陸棚上で発生した気象現象の擾乱(じょうらん)による気圧の急変が原因とされています。これによって発生した海洋長波が海底地形などの影響を受けて増幅していきます。湾内に入った海洋長波は共鳴現象などの影響を受けてさらに増幅し、湾奥では数メートルの上下振動になることがあります。

Hibiya and Kajiura (1982) による数値シミュレーションから、1979年(昭和54年)3月31日に発生した過去最大のあびきは、東シナ海をほぼ東向きに約110km/hで進行した振幅約3hPaの気圧波によっておこされたことがわかっています。



長崎海洋気象台ホームページより